

羽島市の台所について

(市の財政について)

1. 全国の自治体が抱える財政課題

- ① 人口減少と少子高齢化の進展に伴う**税収の減少**と**社会保障費(扶助費)の増加**
- ② 高度経済成長期の急激な人口増加に対応して建設された公共施設等の老朽化による**維持補修費や更新費用の増加**



公共施設等に対する市民ニーズや利用需要も変化する中で、**今後も維持・継続が必要な社会資本(公共施設等)と、そうでないものの仕分けが必要**

2. 羽島市が独自に抱える3つの重点課題

- ① 耐震性等に問題のある現本庁舎(昭和34年築)に替わる**市役所新庁舎の建設**
- ② 老朽化で平成27年度末で稼働停止している従前施設に替わる**次期ごみ処理施設の建設**
- ③ 市内唯一の病院で、岐阜医療圏南部の二次救急医療を担う**市民病院の経営維持**

3. 歳入確保と歳出削減の取り組み

- ① 歳入確保の取り組み
 - ・ 企業誘致の推進
 - ・ 公共施設でのネーミングライツ事業の実施
 - ・ 図書館での雑誌スポンサー制度の実施
 - ・ 有料広告の活用(HPバナー広告、封筒等)
 - ・ ふるさと納税制度の活用
- ② 歳出削減の取り組み
 - ・ 公共施設等への新電力・LED照明の導入による電気使用料の削減
 - ・ 市債借入(借金)に当たっての利息償還額の抑制
 - ・ 事業仕分け等による事務事業の見直し

4. 3つの重点課題に次ぐ、3つの施策分野

- ① **子ども・子育て支援**
 - ・ 産後ケア事業の開始
- ② **教育の充実**
 - ・ 竹鼻中学校武道場の整備事業
 - ・ 学校施設へのWi-Fi環境の整備事業
 - ・ 西部幼稚園の子ども生活支援員の増員
 - ・ 英会話教育事業の充実
 - ・ コミュニティスクール推進事業の創設
- ③ **産業振興**
 - ・ 地域経済循環分析事業の実施

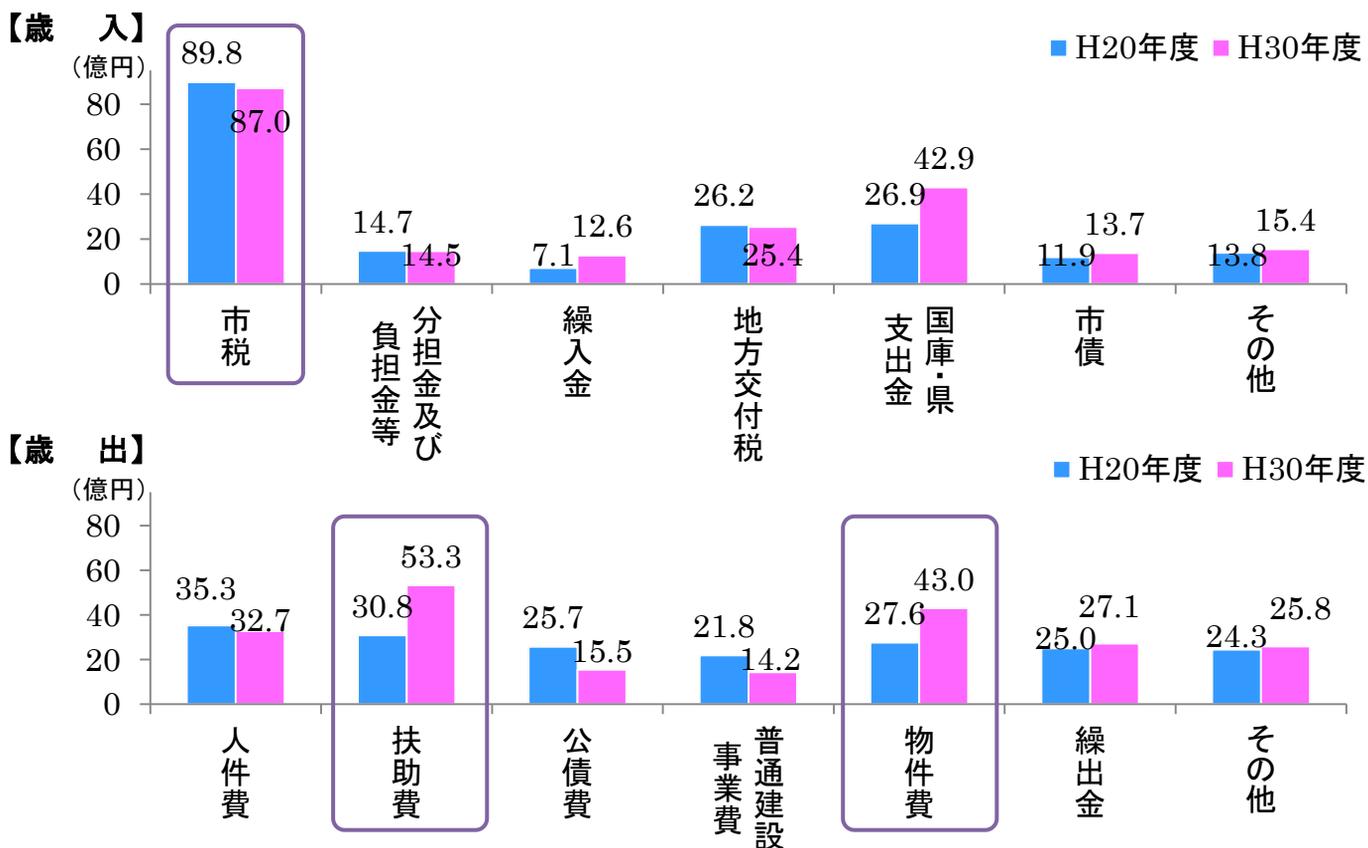
5. 市の予算を家計に例えると

平成30年度の一般会計の予算額(211.5億円)を、年収500万円の家計に例えると (単位:万円、%)

収入項目	金額	割合	支出項目	金額	割合
給料(市税)	206	41.1	食費(人件費)	77	15.5
諸手当(地方交付税など)	96	19.3	光熱水費、衣服費など(物件費など)	102	20.4
パート収入(分担金及び負担金など)	34	6.9	保育料、医療費など(扶助費)	126	25.2
親からの援助(国庫・県支出金)	101	20.3	子供への仕送り(繰出金、補助費など)	118	23.6
預金引き出し(繰入金)	30	5.9	車や家具の修理費(維持補修費)	4	0.8
ローン借入(市債)	32	6.5	住宅の増改築費(普通建設事業費)	34	6.7
			ローン返済(公債費)	37	7.3
			預金(積立金)	3	0.6
合計	500	100	合計	500	100

※ 端数処理の都合上、内訳と合計が一致しない場合があります。

6. 10年前と現在の歳入歳出(収入支出)を比べると



- ・ 歳入歳出**総額は、10年前から 21億円増加**(平成20年度 190.5億円→平成30年度 211.5億円)
- ・ 歳入の根幹となる**市税収入は、ほぼ横ばい**
- ・ 歳出では、**扶助費が 22.5億円(約 1.7倍)、物件費が 15.4億円(約 1.6倍)、それぞれ増加**

「**選択と集中**」により、**限られた財源をいかに有効に活用していくか**